

平成 23 年度 横浜国立大学

副専攻プログラム「安心安全マネジメント」 募集要項・履修案内

1. 副専攻プログラム「安心安全マネジメント」の目的と概要

安心・安全な社会の構築という強い社会ニーズに応えるためには、リスクの概念を基本に置いた実践的な方法論を理解し、高い倫理観をもって、培った知識・技術力を連携できる人材の養成が必要です。そこで、安心・安全の科学研究教育センター（以下センター）では、全学の研究科、学府の協力を得て、平成 20 年度まで文部科学省科学技術振興調整費新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」を実施してまいりました。その教育内容とシステムを引き継ぐものとして、自然科学と人文・社会科学の融合知識をベースとし、具体的な実務上の課題に、リスクマネジメントの手法を的確かつ総合的に適用できる技能と意思決定能力を身につけた人材の育成を目的とした、副専攻プログラム「安心安全マネジメント」を行っております。

2. 応募要件

本副専攻プログラムの履修者は、以下の全ての要件を満たす必要があります。

- (1) 平成 23 年 4 月において、本学大学院の研究科・学府に在籍する大学院生で、本副専攻プログラムの目的に関連した知識・手法の習得を目指している者
- (2) 在籍する研究科・学府での修士論文または博士論文研究の指導教員の承認を得た大学院生

[注 1] 上記要件のいずれかが満たされない場合の応募は認められません。

[注 2] 本副専攻プログラム履修者には、在籍する研究科または学府での修士または博士前期課程の修了要件となる授業科目の履修に加えて、本副専攻プログラムで定められた科目の履修と単位の修得が求められます。在籍する研究科・学府の指導教員と十分に相談した上で応募して下さい。

[注 3] 本副専攻プログラムの応募および参加にあたっての応募手数料や参加料は必要ありません。

3. 募集人員

本副専攻プログラムの募集人員は、約 10 名です。

4. 履修登録

履修を希望する大学院生は、下記の書類を以下の URL からダウンロードして指導教員承認書以外を電子ファイルで提出して下さい。指導教員承認者の原本はセンターに直接提出して下さい。

登録期間：履修者が所属する研究科，学府での履修登録期間

提出窓口：安心・安全の科学研究教育センター事務室（S5-3 理学研究棟 501 室，10 時～17 時）

メールアドレス：anshin@ynu.ac.jp

ホームページ： <http://www.anshin.ynu.ac.jp>

(1) 履修登録申請書および指導教員承認書【様式 1】

(2) 在籍する研究科・学府での履修登録カードまたは履修登録票の写し^(注4)

本副専攻プログラムの科目の登録は、履修者が所属する研究科・学府の履修方法，期間及び基準により行うこととする^(注5)。

[注 4]：在籍する研究科・学府での履修登録カードの写しに本副専攻プログラムの科目がわかるようにマークしてください。

[注 5] 1. 履修者が所属する研究科・学府において，定められた期間に必ず履修登録を行うこと。

2. 本副専攻プログラムの履修が許可にならなかった場合，安心安全マネジメント特別演習の履修はキャンセルすること。他研究科・学府の講義の履修については，指導教員に再度確認すること。

5. 選考

履修希望者が募集人数を超えた場合には，書類選考等を行い履修者を決定します。選考のため，必要に応じて志望動機書などの資料の提出を求め，面接することがあります。なお，本副専攻プログラムの履修を許可されなかった者には，不許可の連絡をします。

6. 副専攻プログラムの開講科目

本副専攻プログラムの履修者は、所属する研究科・学府の主専攻で定められた修了要件に加えて、本副専攻プログラムで定められた以下の表1から履修しなければなりません。

表1 本副専攻プログラムの開講科目

	科目名 (時間割コード)	単 位	担当教員	開講学府・研究科	開講時期	開講曜日・時限
必修	リスク分析論 ^(注7) (EM60101)	2	大谷 英雄 松田 裕之	環境情報学府	秋学期	金曜日 6限
選 択 必 修 講 義 科 目	安心感の心理・社会的基盤 (EM00213)	2	高木 彩	環境情報学府	春学期	集中
	リスクマネジメントと 社会技術 (EM00210)	2	竹花 立美 佐野 尊 小林 英男	環境情報学府	秋学期	火曜日 4限
	都市リスク解析のための 空間情報科学 (EM00211)	2	古屋 貴司	環境情報学府	春学期	火曜日 5限
	構造材料のリスク (GB40136)	2	福富 洋志	工学府	奇数年度 秋学期	火曜日 2限
	リスクマネジメントのため の技術者倫理B (GB10122)	1	高田 一	工学府	秋学期	火曜日 2限
必修 演習 科目	安心安全マネジメント 特別演習 (EM00223)	2	各教員	環境情報学府	秋学期	月曜日 5~6限 (5回の集中演習)

[注6] 1. 上記の科目は平成23年度予定のものであり、今後変更の可能性があります。

[注7] 1. 環境情報学府で開講されるリスク分析論がやむを得ない理由で履修できない履修者は、理由書を副専攻プログラムの教務委員会に提出し認められた場合、以下の科目に換えることができます。

表 2 工学府で開講するリスク分析論について

	科目名 (時間割コード)	単 位	担当者	開講学府	開講時期	開講曜日・時限
必修	リスク分析論 ^(注8) (GA60119)	2	佐藤吉信 町田 基	工学府	前学期	月曜日 3 限

7. 修了要件

履修者の所属する研究科・学府の修了要件を満たし、以下の表 3 の要件を満足すると本副専攻プログラムの修了を認定します。ただし、環境情報学府環境リスクマネジメント専攻所属の履修者の内、専攻共通コア講義科目としてリスク分析論を学位修了要件にしている場合は、表 1 の選択必修講義科目から 4 単位以上修得すること。

表 3 本副専攻プログラムの修了要件

授業科目	修了に必要な単位数
必修科目	2 単位
選択必修講義科目	2 単位以上
必修演習科目	2 単位
合計	6 単位以上

8. 副専攻プログラムの修了申請

履修者は、本副専攻プログラムの修了要件を満たす見込みとなった時点で、センターに修了申請を行って下さい【様式 2】。

修了申請に当たっては、履修した副専攻プログラムの科目の履修状況を指定された期日までに届け出なければなりません。

9. 副専攻プログラム修了証

成績証明書に副専攻プログラムを修了したことが記されます。また、本副専攻プログラムの修了者に対し、修了証を授与します。

本副専攻プログラム修了証は、上記の目的に沿った人材育成教育を履修したことを証するものですが、いわゆる資格・免許ではありません。

10. 副専攻プログラムの教務関係・事務手続きおよびその他の問い合わせ先

場所： 安心・安全の科学研究教育センター事務室

(S5-3 自然科学系総合研究棟 I (理学研究棟) 501号室)

電 話： 045-339-3772(事務関係)

045-339-3979(教務関係)

E-mail： anshin@ynu.ac.jp

平成23年度
副専攻プログラム「安心安全マネジメント」

平成 年 月 日

履修登録申請書

副専攻プログラム「安心安全マネジメント」への履修登録を申請します。

※該当のものを○で囲むこと

所属研究科・学府： _____ 研究科・学府
 専攻： _____ 専攻 学年：M・D 年
 学籍番号： _____
 氏名（ふりがな）： _____ (_____)
 連絡先（メールアドレス）： d+学籍番号@ynu.ac.jp を用います※転送設定は各自でお願いします。
 緊急時の連絡先電話番号： _____
 学位論文の研究テーマ： _____
 ※正式に決定していない場合は、取り組みたいテーマをご記入ください。

平成 年 月 日

指導教員承認書

上記大学院生の副専攻プログラム「安心安全マネジメント」への履修登録を承認します。

指導教員： _____ (印)
 内線番号： _____
 eメールアドレス： _____

副専攻プログラム教務委員会使用欄

受付日	履修登録番号	教務委員会
平成 年 月 日		(印)

**平成 23 年度
副専攻プログラム「安心安全マネジメント」
修了申請書**

私は、下記のとおり、副専攻プログラム「安心安全マネジメント」の修了要件を満たす見込みですので、副専攻プログラムの修了を申請致します。

申請年月日：平成 年 月 日

所属研究科・学府： _____ 研究科・学府

専攻： _____ 専攻

学籍番号： _____

氏名（ふりがな）： _____（ _____ ）※楷書で記入（外字注意）

（ローマ字）： _____ ※ブロック体でご記入ください

修士論文または博士論文テーマ： _____

修士（学位）名称： 修士（教育学，経済学，経営学，国際経済法学，工学，環境学，情報学，技術経営，学術）（○で囲んでください。）

科目名	担当教員	履修時期	
		平成 年度	前・後
リスク分析論		平成 年度	前・後
		平成 年度	前・後
		平成 年度	前・後
		平成 年度	前・後
		平成 年度	前・後
		平成 年度	前・後

資料1 平成23年度 副専攻プログラム「安心安全マネジメント」関連科目の概要

本副専攻プログラムに関連する科目の概要を以下に示します。さらに、詳細な内容については、各研究科、各学府のシラバスがセンターにあるので、それらを参照して下さい。

必修科目

リスク分析論(環境情報学府開講)

環境リスクマネジメント分野で使用されているリスク分析手法について、長期的に被害が生じる生命環境のリスクと、短期的に被害が顕在化する事故・災害のリスクのそれぞれの分析手法について理解すること目的とする。

産業分野でのリスクの分析法であるFTA (Fault Tree Analysis), ETA(Event Tree Analysis), FMEA (Failure Mode and Effect Analysis) など、およびそれらの方法により得られた分析結果の評価法について、また、生態学と環境科学におけるリスク評価・リスク管理・リスクコミュニケーションの方法論を実例を紹介しながら解説する。

リスク分析論(工学府開講)

システム・環境・化学物質のリスクと安全性評価に関する考え方と最近のトピックスを講義する。また、化学物質汚染、エネルギーの安全保障、温暖化問題など地球規模で長期に渡り人類全体に及ぶ環境リスクを考える上での材料を提供する。

選択必修講義科目

安心感の心理・社会的基盤(環境情報学府開講)

現在、科学技術にとどまらず、社会構造においても様々な変化が生じている。そこに起因する「先の見えない」感覚は、人々の生活の様々な側面において不安を感じさせることが多い。しかしその一方で、多くの技術や制度について、人々が「不安を特に感じずに生活している」こともまた事実である。このように安心感の共有がうまく機能している問題を検討することで、現在安心感の提供に困難を抱えている問題の解決にも示唆を与えることができる。

本講義で特に注目するのは、文化的規範の機能的側面である。文化的規範とは、日常の相互作用において行為や判断の基準であり、コミュニケーションのコードを提供することによって不確実性を低減していると位置づけられる。人々は文化的規範を共有することによって、環境の捉え方やコミュニケーションの際の不確実性を低減している。ここではまず、比較文化心理学などで明らかにされてきた文化の諸特徴を概観し、日本において安心感を共有するのに必要な要因を議論する。

リスクマネジメントと社会技術(環境情報学府開講)

社会の安全・安心の問題の解決を目的とし、自然科学と人文・社会科学の複合領域の知見を統合して、新たな社会システムを構築するための社会技術について、その手法としてのリスクマネジメントを中心として講義する。

都市リスク解析のための空間情報科学(環境情報学府開講)

自然災害から人為的災害まで都市の安全を脅かす要素は様々存在するが、その対策計画や解決は個人や一組織だけでは成しえない。GIS(地理情報システム)は市民から専門家まで、空間情報という共通言語を活用し、多様なステークホルダーが対象リスクへの理解を深め、各々の考え方を伝え、相互に理解すること支援することが可能な情報基盤のひとつである。その基礎的要素は、情報学、地理学、統計学、幾何学、社会学など各分野に渡るが、これらを包括した基礎知識が無くして、GISをツールとして使いこなすことは不可能である。本講義は、安全で持続可能な社会のため、事例を交えて紹介し、都市のリスク解析に関するGIS利用で見落とされがちな点を中心に基本/応用事項の修得をはかる。

構造材料のリスク(工学府開講)

金属材料の強度は多くの場合、組織に支えられている。構造材料を劣化させる様々な現象を紹介し、組織の内容、組織形成のメカニズム、組織と強度の関係、組織の変化が強度におよぼす影響等などの観点から、現象の理解と対策を概説する。それにより、安全に構造材料を使用するための基本的事項の修得をはかる。

リスクマネジメントのための技術者倫理B(工学府開講)

技術者が携わる科学・技術は絶えず進歩している。また、技術を進めていく上でこれらを正しく評価するためには、正しい判断基準を持つ必要がある。ここ数年間に起こっている不祥事も技術的なことが原因で起こったことも少なくない。したがって、本授業では、判断基準の考え方など、技術者が持つべき倫理について講義するとともに、事例に基づいたケースについて議論することにより理解を深める。

必修演習科目

安心安全マネジメント特別演習(環境情報学府開講)

化学的リスク、物理的リスク、機械的リスク、社会的リスク、心理的リスク、人的リスクなどの様々なリスク要因を分析する際の基本的な手法、考え方を各専門分野の教員が実施するオムニバス形式の演習・実習等を通じて習得する。

